

### CONTENTS

1 … ご挨拶 千葉大学長 徳久剛史  
千葉大学グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業 概要

2 … 取り組み内容、事業運営体制  
3 … ダイバーシティ推進部門の活動  
4 … 研究力向上のための取り組み紹介

### ご挨拶

千葉大学では、誰もが自らの持つ能力が遺憾なく発揮される環境の実現に向けて、ダイバーシティ推進部門が中心となって様々な取組を行っています。平成27年度からは、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業の支援により、東邦大学や量子科学技術研究開発機構と連携してダイバーシティ研究環境促進コンソーシアムを組織して、女性研究者の研究力向上やキャリア・アップに向けた支援を行ってきました。

令和2年度からは、さらにダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業の支援により、千葉大学グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業を開始しました。本事業では、新たな研究力向上に向けた取組や上位職へのキャリアパスを保証する仕組みづくりを行うとともに、ダイバーシティ研究環境実現に向けた意識啓発活動をこれまでより広範に行います。このような取組や活動が全国に波及して、女性研究者の増加に繋がることを期待しています。



千葉大学長  
徳久 剛史

## 千葉大学グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業

文部科学省 令和2年度 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に、本学提案の「千葉大学グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業」が選定されました。

本事業では、若手研究者や女性研究者のグローバルな研究活動を促進するため、支援制度を新設・拡充し、優秀な女性研究者の上位職へのキャリアパスを保証する仕組みづくりを行うことで、女性上位職比率の向上を進めます。また、オンラインで学べる環境を整備し、いつでも学べるダイバーシティ理解のための研修機会を提供します。

### 事業目標

グローバルに活躍できる女性研究者や若手研究者の増加とダイバーシティ環境の実現に向けて、次の3つの目標達成を目指します。

目標  
1

#### 女性研究者の新規採用比率向上

6年目(令和7年度)終了時の女性研究者  
新規採用比率 35%以上

目標  
2

#### 女性上位職比率の向上

6年目(令和7年度)終了時の講師以上の女性研究者  
在職比率 25%以上、役員等の女性比率 20%以上

目標  
3

#### ダイバーシティ研究環境実現に向けた意識改革

教職員から学生まで、オンラインで学べる環境を整備し、  
ダイバーシティ理解のための研修やロールモデルの見える化を推進



# 取り組み内容

千葉大学グローバル・ダイバーシティ研究者育成事業では、女性研究者や若手研究者の国際活動を活性化し、グローバルに活躍できる研究者を育成します。さらに、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて取り組みを行います。

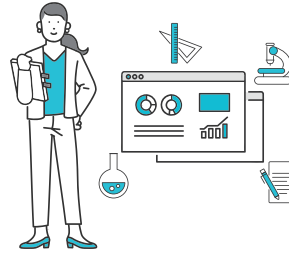


## 上位職登用



優秀な女性研究者の上位職登用を促進させるため、国際活動に関する業績評価基準等の活用、性別等による処遇の差の改善のための取り組みを進めます。

## 研究力向上



国際的な研究活動を推進するため、研究専念制度や、国際研究活動支援制度、英文校閲経費支援制度、グローバルスキルアップ研修を実施し、研究力向上を支援します。

## 意識啓発



多様な価値観を受け入れられるよう、学内全体の差別や偏見につながる無意識のバイアスを排除し、ダイバーシティ推進の必要性について、積極的な情報発信を行います。

## 環境整備

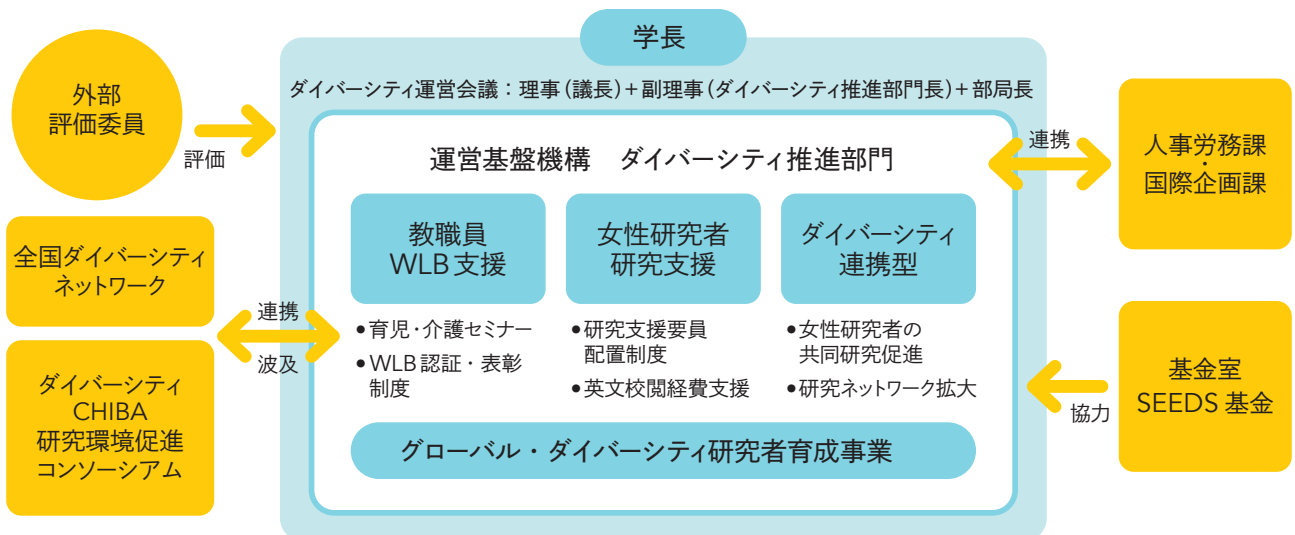


学生から教職員まで、いつでもどこでもダイバーシティについて学べるよう、オンラインコンテンツの開発や、オンラインコンテンツ活用のための研修を実施します。

# 事業運営体制

本事業は、学長のリーダーシップのもと、ダイバーシティ推進部門運営会議にて事業の実施等について審議の上、本学のダイバーシティに関する総合的施策を推進するダイバーシティ推進部門が中心となって、学内の関係機関と連携しながら取り組みを行います。取り組みの成果は、外部評価委員の評価を受けるとともに、

女性研究者活躍促進に賛同する大学・企業が参加する「全国ダイバーシティネットワーク」や、千葉県内や近隣地域の研究機関により構成されている「ダイバーシティCHIBA研究環境促進コンソーシアム」を通じて、学外にも波及していきます。



# ダイバーシティ推進部門の活動

令和2年4月1日より男女共同参画推進部門はダイバーシティ推進部門となり、事務所が移転しました。移転に伴い、新たに女性専用休憩室をリニューアルし、会議&相談スペースを新設しました。



## ワーク・ライフ・バランス支援

本学教職員のワーク・ライフ・バランスを支援する制度を実施しています。

### ベビーシッター利用料補助制度

就労のためにベビーシッターによる在宅保育を利用した場合、利用料の一部を補助する割引券を交付しています。お子さまが病気やけがの回復期に利用した場合は、病後児保育支援として、追加で利用料の補助が受けられます(要事前申請)。



### 研究支援要員配置制度

ライフイベント(妊娠、出産、育児、介護)により、研究時間の確保が困難な研究者を対象に、申請・審査の上、研究支援を担当する補助要員を配置しています。



### セミナーの開催

子どもの病気と対処法に関する最新トピックを学ぶ「病児ケア勉強会」、認知症の基礎的な知識や症状、対処法を学ぶ「介護に役立つセミナー」、性の多様性に関する基礎知識や対応を学ぶ「ダイバーシティ推進のためのセミナー」等を開催しています。



## ダイバーシティ推進のための環境整備

### 女性専用休憩室



妊娠中や体調のすぐれない女性が気軽に利用できる休憩室を設置しています。リニューアルにより、段差が少なく間口の広い部屋になりました。

### 資料ライブラリー



育児、介護、ジェンダー、キャリアデザイン、ダイバーシティ等に関する書籍、過去のセミナー動画のDVD等を揃えています。学内者限定で貸し出しが出来ます。

### 新設 会議&相談スペース



少人数での打ち合わせや、オンライン会議に利用できるスペースを新設しました。ガラス扉とブラインドにより、プライバシーを保ちながら利用が可能です。常駐するキャリアコーディネーターへのキャリア相談にも応じています(要事前予約)。

### 情報発信

ダイバーシティ推進部門のWEBサイトでは、各種制度の募集情報、セミナー開催情報等を掲載し、随時更新しています。また、制度利用に関する啓発ポスターを作成し、制度を利用しやすい環境づくりにつとめています。





# 研究力向上のための 取り組み紹介

今回は、「研究力向上」の取り組みについてご紹介します。詳細はダイバーシティ推進部門のWEBサイトに随時掲載しています。

## 研究専念制度

**対象** 女性研究者

本学に勤務する女性研究者が海外の研究機関等に一定期間滞在し、研究に専念できるよう必要となる経費を支援します。

〈長期〉サバティカル研修 D-II  
「給付型：ダイバーシティ支援」

〈短期〉国際交流公募事業  
「女性研究者の海外渡航支援プログラム（ダイバーシティ支援）」

**募集時期** 年1回（令和3年度の募集は終了。  
令和4年度の募集は6月頃を予定）

**募集時期** 年2回  
（申請締切 第1期：令和3年3月18日、令和3年8月18日）

**要件** 専任教員として1年以上継続勤務し、  
部局長が推薦する女性教員

**支援期間** 概ね10日以上

**支援期間** 2カ月以上1年以内

**支援内容** 旅費の一部、研究費、  
研修期間中の教育・研究活動等の  
代替教員の雇用経費（上限金額有）

**支援内容** 旅費、研究費、研修期間中の教育・研究活動  
等の代替教員の雇用経費（上限金額有）



## 国際研究活動支援制度

**対象** 女性研究者

女性研究者が主となって、海外の大学、  
研究機関等の国際教育研究機関等との  
連携により実施する研究上の取り組みや  
国際集会・セミナーの開催等について、  
必要な経費を支援します。



**支援内容** グローバル研究活動や国際研究集会での発表に  
必要な経費（上限50万円）

## 英文校閲経費支援制度

**対象** 若手女性研究者・博士後期課程大学院生

准教授以下の女性研究者・博士後期課程  
大学院生が国際学会誌等に、英語で論文を  
投稿する際の校閲経費を支援します。



**支援内容** 英文校閲にかかる経費  
（上限5万円）

## グローバルスキルアップ研修

**対象** 研究者・博士後期課程大学院生

グローバルに活躍で  
きる研究者を育成す  
るために、英語力向  
上や、コミュニケー  
ションスキルアップ  
の研修を開催してい  
ます。



### これまでに実施した研修

研究者のためのアカデミック英会話

#### 【受講者の声】

- ・ゆっくり話す、クリアに話すということが大事というのが、よく分かりました。普段交流のない分野の先生方とお話しできて、とても面白かったです。
- ・グループセッションまでできると思っ  
てなかったのですが、ちゃんと発言す  
る機会もあって、有意義な時間を過ご  
せました。

研究者のための英語プレゼンテーション研修

#### 【受講者の声】

- ・プレゼンテーションとして、どういう観  
点で資料をまとめると良いか、スピーチ  
すると良いかなど、大変良い勉強になり  
ました。
- ・改めて、重要な点をふりかえることによ  
って、自身のプレゼンテーションを改善さ  
せるためのアイデアをたくさん得ることが  
できました。